# 宇仁郷通信

No.153
令和４年(2022)4月

発行：宇仁郷まちづくり協議会（編集:情報部会）


## 里山・川環境整備部会活動報告

八王子神社鏡山の里山草刈りと油谷川除草等作業を2月19日（土）に行いました。メンバーは、区長を通じて作業奉仕をお願いしていた方で、鍛冶屋町と油谷町は各2人、青野町、小印南町、国正町、田谷町の4町は各3人、部会事務局より2人、計18人が朝8時に八王子会館前に集合しました。

今年は、作業区域を2か所とし、一つは、鏡山の北東部に当たる約500㎡の雑木林の下草刈りを鍛冶屋と油谷の皆さんで、もう一つは、油谷川の田谷町大歳神社の橋から川上の宮田橋までの区間で除草とごみの収集などを青野、小印南、国正、田谷の皆さんで、それぞれ分かれて作業を行いました。

里山は、昨年一年間草刈り作業をせず放置していたので、少し伸びている笹などがある上、以前に伐採した木の株などもあり、作業の間隔をあけるよう注意していただき、8時30分頃から始めて途中休憩を取りながら、11時前には予定区域の作業が無事終了し、現地解散しました。

また、川の除草作業も同じ時間に始め、作業箇所は川底で道路よりかなり低いため、草刈りした草などを側道にあげるなど手間がかかりましたが、皆さんの協力で収集した草などを神社に運び、こちらも11時ごろには怪我もなく無事に作業を終え、現地解散しました。作業していただいた皆様には苦労をお掛けしましたが、作業区域は大変きれいになりました。どうも、ありがとうございました。

また、川の除草作業については、「現場で焼却してはどうか」との意見がありましたが、延焼や管理の問題もあるので、今回も昨年に続き神社で焼却としました。今後の課題にしたいと思います。　（里山･川環境整備部会）

## 奥山寺の由来

むかし、朝鮮半島の高麗（こま）から恵便（えべん）という僧が日本にやってきて、仏教をひろめました。しかし、その頃の日本人はまだこの教えに耳をかたむけようとしませんでした。がっかりした恵便は、国正村の谷間へ入って心静かに悟りをひらこうとしました。そして聖徳太子の木像を作って安置し、人びとの幸せを祈りました。

それからのちの白雉元年（650）のこと、インドから紫の雲にのって渡ってきた法道仙人がこの地を通りかかりますと、深い山の峰にめでたい雲が棚のように引いているではありませんか。ふしぎに思って下りてみますと、さわやかな風にゆれる松の下に小さなお堂があり、聖徳太子の像がまつられていました。よろこんだ法道仙人は、てあつく供養をしお経をあげました。そのとき、一人の老人があらわれて「もし、ここにお寺を建て聖徳太子さまをおまつりくださるのなら、この地方の人びとに幸せをもたらすでしょう。わたしがお守りいたします」

そう言いおわると、老人は北斗七星となって西の方へ消えて行きました。仙人は十一面観音の像を作って岩の上にすえ、おまつりしました。すると、その像は毎夜のように光を放ちました。土地の人びとはおどろきあがめ、電光菩薩と名付けてうやまいました。このことが都にきこえ、白雉二年、孝徳天皇は立派なお寺を建て、青嶺山奥山寺という名をおくりました。

それから五十数年ののち、大宝三年（703）三月、火災でお堂や塔がすっかり焼けてしまいました。この時、仏教を守る四天王という四人の神があらわれて、太子の像を火の中から持ち出したのです。そうとも知らず、僧たちは寺や仏像が焼けたことをなげき悲しみました。そのとき、はるか下の谷から白髪の翁（おきな）四人が大声でよびました。声をたよりに谷へおりてみましたが、どこにも人影はなく、ただ大きな岩の上に太子の像がすえられていました。よろこんだ僧たちは、そこにお堂をつくってまつり、頂法寺と名付けたと伝えます。

養老二年（718）、行基という僧がお寺の復興を天皇におねがいし、もとの所に寺を建てて頂法寺の太子像をうつしてまつりました。行基も十一面観音の像をきざんで奉納しました。同じ三年、元正天皇はりっぱに再建された奥山寺におまいりし、天下太平をお祈りされたと伝えています。　～加西市の民話と史話より原文のまま転載～

## 宇仁小学校の思い出 ⑫～こんな学校があったのか！～

私は教頭として、平成18年度から3年間、宇仁小学校にお世話になりました。赴任してすぐ、ある先生から「宇仁小学校はすごい学校ですよ」と言われました。「何がすごいの」と聞き返すと「言葉では言い表すことができないけど、しばらくしたらその意味がよくわかります」という答えが返ってきました。

宇仁小学校は温かい校区の人たちに支えられ、地域とともに歩んでいる学校でした。よさこい・安全フェスティバル・運動会・とんど・しめ縄作り・ふれあい教室等、多くの学校行事には子どもたちの笑顔と一緒に、そこにはいつも校区の方々の笑顔もありました。特に、23年も続いていた『さつまいも祭り』では、500人を超える人たちに来ていただき、学校が埋め尽くされる光景にびっくりしました。

また、平成20年に行った『研究発表会』では、地域代表として繁田昭彦氏に学校と地域の関わりについて発表していただきました。私も何十回と学校の研究発表会に参加しましたが、研究会の場で職員以外の人が話されるのを見たことがありません。学校から無理なお願いをしたにも関わらず、快く引き受けていただき、宇仁の子どもたちの素晴らしさが、生きた声として参加者に伝わったことに深く感謝しております。

そして、私もいつの頃からか気づかぬうちに、子どもたちが授業を始めとしたあらゆる学校生活で、生き生きと活動する宇仁っ子の姿に『すごい学校』の言葉の意味を実感していました。一人ひとりが主人公となる活動は、子どもから子どもに引き継がれて、低学年の頃から「○○の実行委員長をしたい」という声もよく聞きました。子どもたちの意識の中で自分や自分たちが責任をもって活動するものとして根付き、自分を輝かせ成長させてくれる学校だったように思います。

そんな宇仁小学校の校風が脈々と受け継がれていく学校に身を置いたからこそ、理想の学校として、本当に『こんな学校があったのか』と今でも心に深く刻まれた懐かしい思い出になっているのだと思います。このような子どもたちを育てる宇仁郷の人たちの思いと伝統を、これからも引き継いでいって欲しいものだと思っています。

（H18.4.1～H21.3.31教頭　髙橋博文）

## *宇仁郷のあゆみ　第二章 宇仁郷まちづくり協議会の群像達*

### まえがき

宇仁小学校旧校舎

小学校問題は平成7年に組織的な活動が始まり、平成10年に宇仁小学校新築期成同盟（会長小川　賢）が設立され、新校舎用地の買収と立ち退き等に田谷町は苦労されました。用地買収清算処理については、宇仁地区6町が応分の負担をしました。

その後、用地整備が出来たものの、市は財政難を理由に学校の建設計画が明示されず時が過ぎていきました。平成16年頃から従来の陳情・請願の体制から脱皮し、地域の活力を高め学校建設を推進する活動に転換を図るべく区長会と市議団で勉強会を作り、活動項目の洗い出しと活動資金の捻出を検討し、地域住民が参画する新しい組織、いわゆる「宇仁郷まちづくり協議会」の素案を作りました。その背景には、市議会から地域活性化の期待と兵庫県の地域活性化の支援策がありました。

平成20年2月23日、宇仁小学校新築期成同盟（会長志方正勝）の総会を八王子会館で開催し、活動方針として

①小学校は心のふるさとという回帰の想いが伝統ある宇仁郷の教育力になり、地域連帯の核となっていることを再認識する。

②児童数が少ないから小学校の建設を遅延する発想は地域社会の求心力を喪失し地域の崩壊につながる。

③老朽化した宇仁小学校の建設を促進するためにふるさと再生事業を推進し、地域が子育ての支援と併せ人口の流失防止と増加対策に取り組んでいく。

の3項を定めるとともに、規約と新役員が承認され、宇仁郷まちづくり協議会が発足しました。

宇仁郷まちづくり協議会設立に尽力された期成同盟の役員は、会長志方正勝、副会長丸岡　肇・井上博明、区長会繁田幸良・玉井康文・常峰八郎・井上　正・民輪正秀・常峰潤一・繁田進作、市会議員団繁田　基・丸岡弘満・井上芳弘、事務局長山本勇二さん達でした。

宇仁郷まちづくり協議会の原点は平成7年にあり、令和4年で27年の歴史があります。